

## WAYプロジェクト（校内道德教育推進委員会）レポート・7

2019・10/30（水）

10月30日（水）のWAYプロジェクト（校内道德教育推進委員会）では、「家族愛・家庭生活の充実」という内容項目についての議論を行いました。

今回は、校内のWAYプロメンバーに加えて、大阪哲学学校の田畑先生、平等先生、木村先生、大阪市立大学の土屋先生、神戸大学附属中等教育学校の中川先生、株式会社イミカの原田さん、葛小中学校の松田先生、橋本先生、大正中学校前教頭の中嶋先生、“学び”育成委員会（学校運営協議会）座長の仲川さん、地域からは卒業生の中西さんにも参加いただき、議論を深めました。少しずつ、本校での取り組みが広がりを見せ、こちらの想定以上にたくさんの方々が関心をもって、WAYプロに参加してくださっています。



今回の議論のテーマである「家族愛、家庭生活の充実」という内容項目は、指導要領では以下のように説明されています。

父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと

この内容について議論しました。

○家族とは、朝起きて「おはよう」といえたり、当たり前のように朝食が用意されていて食べられたりするような、他から見たらささいなことかもしれないが、そんな愛情を感じられるような関係のことをいうと思う。

と、座長の仲川さんから母・祖母・保護者の視点で、自身の子育ての経験もふまえて語ってくださいました。

例えば、母子家庭の子、両親がおらず祖父母に育てられている子、両親はいるがその両親に不信感を抱いている子、両親が共働きで夕食はいつもコンビニ弁当の子など、その家庭の形は様々である。そんな子たちが、「親の愛」という言葉をどう受け取るのか、その受け取り方は本当に千差万別であると思う。「自分とは違う！」「きれい事や！」なんて思う

子もいるだろうし、「確かに！」「親に愛されてきたからここまで自分は大きくなれたんだな」と思う子もいるだろうなと議論を聞きながら感じました。中川先生から、教師同士で考えてみても、同じように親の愛と聞いて「そうだ」と思う人もいるし、「そうか？」と思う人もいるのではないかと発言していただいたとき、そのことが身近に、そしてすぐリアルに感じられました。そんな中で田畑先生から

- 家族について考えるとき、同じ苦しみを持つ者同士はつながることと、自分と相手を重ねること（それぞれがもつ家族のイメージを共有すること）が必要不可欠で、それが出来たときにその子が持つ世界が広がる。
- イメージの共有には「語ること（対話すること）」が必要になる。

とアドバイスいただきました。そんな話を聴いて、一番に思い浮かんだのは「教師第一声（学級開きの際に、教師が自分のことを語る取り組み）」でした。まずは子どもの前に立つ一人の人間として自分のことをオープンにしていく（語っていく）ことが本当に大事なんだと改めて大正中学校でしている取り組みの重要性を感じました。

また、正直、自分のことを振り返ったときに、私自身は家族のことで苦しんだ経験がありません。同じ苦しみをもつものがつながるのなら、私自身が本当の意味で目の前の子どもとつながることはできるのだろうか？と以前から悩んでいたことも頭をよぎりました。「そもそも人は相手のことを全て理解できるものなんですか？」という校長先生からの問いかけに対して、田畑先生、土屋先生をはじめ、いろんな先生方から、

- そもそも今いる『自分』はいろんなことがらが互いに関わり合うことでつくられていて、それがその人が背負っている歴史となる。なので、相手の歴史を100%理解することは不可能です。
- 相手のことが100%わかるか全くわからないか、という風に100か0かで考えることではない。100%わかる人がいるならそれは、自分がもう一人いることになるのだから。
- 例え100%わかることは無理であっても、日々コツコツと関わっていく中で、その人が背負う歴史を少しずつわかっていくことはできる。
- わからないから諦める必要はないのではないかと。「わからない」だけど「わかりたい」をもち続けることは大切ではないか。

と話してくださいました。そんな先生方の議論を聴いていて、苦しみを共有してつながる（相手と自分を重ねる）ためには『自分がわからない人間であることを自覚すること』『わかろう（知ろう）とする努力をするしかない』『1つ1つ理解していくしかない』と自分の中で考えていたことが、より明確に、そして鮮明になったように感じました。

限られた時間の中では「家族愛とは何か」という結論を出すことは難しかったのですが、家族のイメージや形が千差万別であるからこそ、目の前の子どもたちがもつ家族のイメージを私自身が共有できるように日々努力していく（学ぶ・関わる）ことを意識していきたいと強く感じました。